



第 45 回 JSiSE 全国大会のご案内

担当者： 全国大会委員会

テーマ：学びのサステイナブル化に向けた教育システムの現状と未来

<https://www.jsise.org/taikai/2020/>

- 開催日時： 2020 年 9 月 2 日(水) ～ 9 月 4 日(金)
- 会 場： 広島工業大学 五日市キャンパス (広島市佐伯区三宅 2-1-1)
- 主 催： 一般社団法人教育システム情報学会

■ 大会日程 (予定)

9 月 2 日 (水)	
午前	プレカンファレンス
昼	企業ランチョンセミナー
午後	オープニングセッション, 企業セッション, インタラクティブ(ポスター・デモ)セッション, 一般・企画セッション
9 月 3 日 (木)	
午前	一般・企画セッション
昼	企業ランチョンセミナー
午後	各種表彰, 特別講演, メインイベント, インタラクティブ(ポスター・デモ)セッション, 学生研究特別セッション(インタラクティブ(ポスター・デモ)発表)
夜	懇親会
9 月 4 日 (金)	
午前	一般・企画セッション
午後	クロージングセッション, 大会奨励賞表彰, 現地校主催イベント

※ 大会日程は変更される可能性があります。

■ 交通アクセスについて

<http://www.it-hiroshima.ac.jp/about/access/itsukaichi/>

<JR 広島駅から>

JR 広島駅から山陽本線で JR 五日市駅下車

所要時間約 17 分, 1 時間に 4 本程度運行. 片道運賃 240 円 (2020 年 2 月時点).

JR 五日市駅より徒歩 30 分

広電五日市駅から広島電鉄宮島線・広電宮島口行で楽々園駅下車

所要時間約 4 分，1 時間に 5～6 本程度運行．片道運賃 140 円（2020 年 2 月時点）．
楽々園駅より徒歩 15 分

または，五日市駅南口発「楽々園」經由「東観音台団地」「湯来温泉」方面行きに乗車
「広島工大入口」下車
所要時間約 8 分，1 時間に 1～2 本程度運行．片道運賃 170 円（2020 年 2 月時点）．
「広島工大入口」より徒歩 3 分

<広島市中心部（八丁堀，紙屋町）から>

八丁堀・紙屋町（西・東）・原爆ドーム前から広島電鉄 2 号線・広電宮島口行に乗車，
楽々園駅下車
所要時間約 45 分，1 時間に 5～6 本程度運行．片道運賃 230 円（2020 年 2 月時点）．
楽々園駅より徒歩 15 分

■ 大会までのスケジュール

投稿締め切りの後に，参加申し込みが開始されます．発表者には，参加申し込み開始時にメールでご連絡いたします．

- 2020 年 4 月 9 日(木) 講演申込・投稿開始
- 2020 年 5 月 13 日(水) 講演申込締切
- 2020 年 6 月 9 日(火) 投稿締切
- 2020 年 6 月 11 日(木) 参加申込開始
- 2020 年 7 月 9 日(木) [発表者] 参加申込締切
- 2020 年 8 月 4 日(火) [発表者以外] 参加申込締切(郵便振替・コンビニ決済)
- 2020 年 8 月 14 日(金) 参加費納入締切(郵便振替・コンビニ決済)
- 2020 年 8 月 17 日(月) [発表者以外] 参加申込締切(クレジットカード)

■ プログラム

プログラムは変更される可能性があります．最新の状況は大会 Web サイトに掲載いたします．

○ 企画セッション

1. SEL (Social and Emotional Learning) の高等教育への適応
2. インダストリーエンゲイジメント&コラボレーション
3. 実世界指向の教育学習環境
4. 一人 1 台時代の情報活用能力の育成
5. Society5.0 に向けた AI・数理・データサイエンスと人材育成支援に関わる教育システム
6. 学習データの先進的・実効的な利活用とその課題
7. 医療・看護・福祉領域における ICT 等活用教育
8. AI/ロボット/VR・AR を活用した学びにおける感情・情動面からの支援
9. 初等教育等におけるプログラミング教育

■ 講演論文集について

第 45 回大会より CD-ROM での配布を廃止し、Web による配布のみを予定しております。Web 版の講演論文集は、2020 年 8 月 31 日(月)に大会参加者のみに公開され、2021 年 3 月 1 日(月)に一般公開されます。

■ 企業展示・広告の募集

企業展示・広告を募集いたします。お申し込み先など、詳細は大会 Web サイトでお知らせいたします。

■ 協賛金のお願い

大会運営のための諸費用として使用させていただく協賛金を募集しております。ご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。詳細は大会 Web サイトでお知らせいたします。

■ 大会事務局

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター
一般社団法人 教育システム情報学会 全国大会委員会
E-mail : jsise-desk@bunken.co.jp



2020 年度研究会開催スケジュール

2020 年度の年間スケジュールは下記のとおりです。

詳細は、学会ウェブページ (<https://www.jsise.org/society/committee.html>) を御覧ください。

第 1 回 5 月 9 日(土) オンライン開催

学習環境デザインと実践のモデル／学習データの分析と応用／医療・看護・福祉における ICT
を利用した学習支援／その他

申込み締切：3 月 17 日(火) 原稿締切：4 月 7 日(火)

第 2 回 7 月 12 日(日) 北星学園大学 (北海道札幌市)

ICT を活用した学習支援と教育の質保証／一般

申込み締切：5 月 21 日(木) 原稿締切：6 月 11 日(木)

第 3 回 9 月 26 日(日)(変更の可能性あり) 静岡大学 浜松キャンパス (静岡県浜松市)

数理・データサイエンス教育と学習支援システム／一般

申込み締切：8 月 6 日(木) 原稿締切：8 月 26 日(水)

第 4 回 11 月 14 日(土) 和歌山大学システム工学部 (和歌山県和歌山市)

スキルや経験に関わる学習支援法や支援環境／一般

申込み締切：9 月 24 日(木) 原稿締切：10 月 15 日(木)

第 5 回 2021 年 1 月上旬 (予定) 徳島大学 (予定)

実世界指向の教育学習環境／一般

申込み締切：未定 原稿締切：未定

第 6 回 2021 年 3 月中旬 (予定) 大阪教育大学 (予定)

一人 1 台時代の情報活用能力の育成／一般

申込み締切：未定 原稿締切：未定

特集 2021 年 3 月中旬 (予定) 大阪教育大学 (予定)

未定

申込み締切：未定 原稿締切：未定

研究会全般に関するお問い合わせは、学会事務局までお願いいたします。



2020 年度 第 1 回研究会 開催案内

担当者： 加藤泰久，北村士郎，仲林清，真嶋由貴恵，松居辰則，森本容介（研究会委員会）

■テーマ

学習環境デザインと実践のモデル／学習データの分析と応用／医療・看護・福祉における ICT を利用した学習支援／その他

※学習分析学会と合同で開催します。

■開催日時

2020 年 5 月 9 日(土)

■開催場所

オンライン開催

詳細が決まり次第 Web サイト等でお伝えいたします。

■趣旨

本年度第 1 回研究会は、「学習環境デザインと実践のモデル／学習データの分析と応用／医療・看護・福祉における ICT を利用した学習支援／その他」のテーマで実施いたします。

「学習環境デザインと実践のモデル」に関しては、大学や企業における人材開発や組織マネジメントとの連携，学習コンテンツ設計，インストラクショナルデザイン，品質評価，学習者支援，ブレンデッドラーニング，インフォーマルラーニングなどの方法論，e ラーニングツール，システム，実践環境やモデルに関する提案・開発・応用など幅広いトピックスに関するご発表を募集いたします。さらに，動的かつ非構造的な知識や技術を適応的・持続的に学ぶための学習環境デザイン，長期的な視点からの学習評価法について，萌芽的な取り組みに関する発表を歓迎いたします。

「学習データの分析と応用」に関しては学習データの収集・分析・可視化に関する理論・技術・実践に関する幅広い発表を募集し，実効性の高い学習データの分析と利活用の可能性や課題について議論したいと思っております。

「医療・看護・福祉における ICT を利用した学習支援」に関しては，マルチメディアを活用した e ラーニングが多くの医療系大学や病院などに導入され，ICT を活用して膨大な知識の効率的な学習，新しい知識の定着，医療・看護技術の習得などで，高い学習効果が得られたことが報告されています。本研究会では，医療・看護・福祉分野において求められている高い実践能力をもつ人材の育成やナレッジマネジメント，学習者支援，学習コンテンツの設計，インストラクショナルデザイン，医療シミュレーション教材の開発や実践，医療サービスの質保証ならびに質評価，e ラーニング教材制作，臨床や教育機関での実践・運営環境，著作権処理に関する様々なトピックを扱い，この分

野における専門職教育に必要な知識や技能を習得するための ICT 活用教育方法について、議論を進めていきたいと思っております。

その他、教育システムに関する幅広い分野からの発表も歓迎致します。初中等教育、高等教育、企業教育などの分野から、多くの方々の発表をお待ちしております。

■発表時間

通常の発表(原稿あり)は 25 分(発表 17 分, 質疑 7 分, 入れ替え 1 分)を, 原稿なし発表は 15 分(発表, 質疑, 意見交換等を自由にアレンジ)を予定しております。

■参加費等

研究会への参加は無料ですが、登壇者の方で研究報告の年間購読をされていない方には、当日分のオンライン研究報告集の購入(1,000 円)をお願いしております。詳しくは以下の Q&A を御覧ください。

<https://www.jsise.org/society/faq.html>

■研究報告について

研究報告は電子化されています。年間購読をお申し込みの会員の方は、研究会開催日の約 1 週間前から会員専用マイページで閲覧できます。非会員の方や、年間購読を申し込まれていない方は、当日、受付で研究報告集代(1,000 円)をお支払いいただいた上で、インターネット経由でダウンロード、または受付に準備する USB メモリーからコピーできます。詳しくは以下のページをご覧ください。

https://www.jsise.org/utility/information/howto_jrr.html

なお、年間購読(4,000 円)をお申し込みいただくと、年 6 回の定例研究会と 1 回の特集研究会の計 7 回分の研究報告を読むことができます。申込方法等については、以下のページをご覧ください。

<https://www.jsise.org/utility/information/20160222.html>

■お問い合わせ先

松居辰則（早稲田大学、第 1 回研究会担当委員）

E-mail: matsui-t@waseda.jp（「@」の部分は、半角の「@」に変えて下さい）



2019 年度 第 6 回研究会 開催中止報告

担当者： 西野和典（九州工業大学）、西端律子（畿央大学）、鷹岡亮（山口大学）、
浅羽修丈（北九州市立大学）、永田奈央美（静岡産業大学）、
長谷川理（武蔵野大学）、山本樹（明海大学）

3月14日に千葉工業大学で開催を予定しておりました本研究会は、新型コロナウイルス感染が拡大している現状を踏まえ、開催を中止することとなりました。発表ご予定だった皆様におかれましては、年度末の大事な発表機会がなくなることとなりますが、なにとぞご理解賜りますようお願い申し上げます。

本研究会で発表予定であった全ての発表について、登壇したものとして取り扱います。

本来、「持続可能なプログラミング教育実践」というテーマのもと、多くの課題をどのように乗り越え、次世代の子どもたちの教育に資するべきかを、早期に考え、議論することをめざしていました。しかし、上述の通り、下記の発表タイトルを Web 上へ掲載するのみとさせて頂きました。ぜひ、発表原稿をご覧頂き、持続可能なプログラミング教育実践に関する研究について深めていただければ幸いです。

なお、持続可能なプログラミング教育実践に関しまして、改めて、同様の議論ができる場を設けたいと思っておりますので、引き続き、よろしく願いいたします。

- 小学校教員志望学生に対するプログラミング演習の試行
- 小学生によるゲームプログラミングでのテキスト型言語とビジュアル型言語の特徴比較
- 持続的なプログラミング教育のための教員支援に関する考察
- 家庭での継続につながるような子ども向けプログラミングイベントの開催
- 電気通信大学プログラミング教室における CPU の仕組みを学ぶ夏季集中講座の実践
- 反転型のプログラミング授業におけるモブプログラミング導入の試み
- 学修データ収集システムの開発および子ども向けプログラミング教室における学修記録の分析
- プログラミング課題における進捗状況可視化手法の提案
- 情報処理基礎からデータサイエンス基礎へ～パソコン操作リテラシー教育に求められる変遷へどのように対応するか～
- 生物分野の学習における ICT 利用の可能性と課題
- 小学校低学年児童ファーストでの ICT 教育導入の是非と課題
- e ポートフォリオを活用した個人内評価モデルに基づく評価支援システムの開発
- 豊かな学びのデザインマップを活用した大学における授業実践と e ポートフォリオとしての支援機能について
- 自己エスノグラフィによる AL 推進活動の「支援者」の分析
- AI を活用した初修中国語会話復習用アプリ教材の設計
- 学習スタイルによるコースウェア型 CALL 教材利用評価
- 情報系学生を対象とした文書作成力養成を目指した総合的なカリキュラムの評価

- Pepper による学習者の理解状況に基づく応答・教授環境の実現
- 問いのメタ認知を促す議論リフレクション支援システム
- 画像処理を用いたプレゼンテーションの振り返りを支援するシステムの開発
- 地域連携での PBL 型授業の環境整備に関する一考察
- Web 配信講義ビデオを用いた事前学習でのオンライン・バスセッションの構想
- 情報教育におけるプロジェクト型の学びの評価と可視化手法の検討
- 事故体験により安全意識を向上させる運転シミュレーションのデザイン
- スマートフォンを使用しながら双方向の授業を受けることが学習者に与える影響 -高等学校理科における授業実践-
- ヒューマンエラーの技術的減少可能性について
- 地方地域におけるライドシェアの発展可能性について
- 造形要素への着目を促すための作品比較による美術鑑賞支援に関する検討
- Web 調べ学習における学習シナリオの再構築支援
- 学習者の Web 調べ学習スキルに応じた演習問題生成
- スラックラインを対象としたスキルサーバの設計・構築
- AI チャットボットを活用した振り返り支援の設計
- Error-based Simulation (EBS) と概念マップを用いてメタ認知活動における抽象化操作を促すシステムの開発と評価
- 理工系初年次「力学」履修者の誤概念保持の類型評価の試み
- 数学問題における論理構造の可視化機能を用いた学習支援システムの開発
- 集計前データの統計教育教材化の可能性
- 電子黒板を用いた授業において「教師が見える」ことによる効果に関する因果関係の検討
- 教職課程履修生の ICT 活用教育への理解を学校教員と比較した評価
- 授業の到達目標の達成度評価と成績との関連性分析
- グループディスカッションの遠隔指導支援に向けた映像分析の試み



2019 年度 特集論文研究会 開催中止報告

担当者： 学会誌編集委員会委員長 瀬田和久（大阪府立大学）

■テーマ： SDGs（Sustainable Development Goals）に貢献する教育システム

■開催日時： 2020年3月14日（土）【中止となりました】

■会場： 千葉工業大学津田沼キャンパス7号館4階【中止となりました】

■発表申込件数：14件

■概要：

3月14日に千葉工業大学で開催を予定しておりました本研究会は、新型コロナウイルス感染が拡大している状況を踏まえ、開催を中止いたしました。発表予定であった皆様におかれましては、年度末の大事な発表機会がなくなることとなりますが、参加者のみなさまの健康と安全を最優先にする判断を致しました。

なお、取り下げ希望のなかった全ての発表については、登壇したものとして取り扱います。また、今回発表を行えなかった方のうち希望される方には、来年度のいずれかの研究会で振替発表を行えるようにいたします（閲読を希望された方につきましても、振替発表では通常の発表と同じ質疑時間スケジュールとなります。具体的な振替申込方法については今後学会からご案内予定です）。

本特集号研究会は、論文特集との連動企画です。学会誌特集論文の案内を学会 Web サイト（https://www.jsise.org/journal/cfp2020_offer.html）にて掲載しますので詳細はそちらをご確認ください。皆様のご投稿を心よりお待ちしております。

特集論文研究会では、今年度からより良い閲読コメントをお渡しできるように、当日の発表内容を踏まえたうえで閲読させていただくことにしておりました。来年度より、特集論文研究会の閲読コメント送付までの流れを以下のように致しますので、ご了解ください。

1) 閲読コメント担当者は、1編に対して2名

A) 閲読者に事前に論文を送付

B) 閲読者は当日の発表あるいは記録動画を踏まえて閲読コメントを作成

（閲読者が当日の発表を聞けない場合に記録動画を視聴【※1, 2】）

2) 閲読コメントは研究会の開催から1カ月後を目途に送付

※1 動画撮影に同意した発表のみ【※3】

（動画撮影に同意されない場合にも閲読コメントはお送りします。）

※2 撮影された動画は発表者ご自身、担当閲読者および特集号編集委員のみが視聴可能

※3 動画撮影の詳細については、別途、説明資料を発表者に送付いたします



2019 年度学生研究発表会報告（人が集まる形式の発表会中止）

担当者：人材育成委員会

2019 年度 JSiSE 学生研究発表会は、例年同様に北海道、北信越、関東、東海、関西、中国、四国、九州、沖縄の 9 地区で開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染の拡大のため、人が集まる形式の発表会は中止といたしました。なお、テレビ会議やウェブ形式等人が集まらない形式での開催については、各地区の状況に応じて柔軟に対応することといたしました。

学会 HP 上に掲載されております学生研究発表会の論文は、学会として発表したものと認めます。また、学生研究発表会では地区毎に優秀賞の審査を行っておりますが、2019 年度も各地区の状況に応じ、優秀賞審査を行うこととしております。審査方法は地区毎の事情に配慮したうえで、表彰情報を含め、学会 Web サイトで後日公開いたしますのでご覧ください。

開催地区	実行委員長	備考（発表会の代替方法等）
北海道	小松川 浩（公立千歳科学技術大学）	
北信越	香山 瑞恵（信州大学）	3 月 10 日オンライン発表
関東	山本 樹（明海大学）	3 月 2 日オンライン発表
東海	長谷川 信（岐阜聖徳学園大学）	
関西	河野 稔（兵庫大学）	Moodle を利用して、発表者と審査員によるオンライン発表を行った。 ・3 月 6 日～13 日…スライドやポスターなどの発表資料の提出 ・3 月 14 日～20 日…コメント機能による質疑応答
中国	松本 慎平（広島工業大学）	
四国	米谷雄介（香川大学）	論文および発表資料に対する四国地区教員の評価に基づき決定
九州	石塚丈晴（福岡工業大学短期大学部）	
沖縄	小渡 悟（沖縄国際大学）	Moodle 上での資料提示・質疑応答

なお、関東地区のオンライン発表の様子につきましては、関東支部のご支援をいただいております。別途本ニュースレター上にて報告がなされております。そちらもご覧ください。



科研費申請支援（研究活動スタート支援）について

人材育成委員会 小西達裕（静岡大学）、布施泉（北海道大学）、光原 弘幸（徳島大学）

教育システム情報学会では、次代を担う若手研究者の自立、研究活動の活性化を積極的に支援することを主旨として、科研費申請支援制度を2018年10月より実施しています。

本学会の理事等を中心に、当該分野の科研費審査や獲得経験を有する複数のシニア研究者（匿名）が、提出された申請書に対して、主張点や論旨の明確化、焦点化など、審査員に上手に伝えアピールする視点から、採択に向けたコメントを書面で提供するものです。

■ 今回の募集は、「研究活動スタート支援」が対象です。若手研究および基盤研究(C)の申請支援については本年9月ごろの募集を予定しています。

「研究活動スタート支援」は、我が国の研究機関に採用されたばかりの研究者や育児休業等から復帰した研究者等が行う研究をサポートするものであり、これらの研究者の当座のスタート支援に資することが期待されます（https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/22_startup_support/koubo.html より抜粋）。

申請書評価の多様な見方に触れて頂くためにも、学会としてまとめることはしないでコメントータからのコメントをそのまま提供します。これらを参考材料として申請者ご自身の判断の下で取捨選択しての申請書のブラッシュアップに役立てて頂く主旨のものです。（学会およびコメント提供者は採択に関する責任を負うことはできませんので、予めご承知ください。）

主として以下の分野を対象にすることにしていますが、JSiSEが学際的な領域を対象にしていることから、他の分野でもできるだけ柔軟にお受けしたいと考えていますので、下記お問い合わせ先までお尋ねください。

■対象分野：

- ・「大区分A」「中区分9：教育学およびその関連分野」
 - ・09070 教育工学関連
 - ・09080 科学教育関連
- ・「大区分J」「中区分62：応用情報学およびその関連分野」
 - ・62030 学習支援システム関連

■ 申請者は学会員であることが必要です。

■ 大まかなスケジュールは、以下の通りです。ご所属機関により提出時期が異なることを踏まえ、提出期間に幅を持たせています。

○ 3月中旬～4月上旬頃：エントリー

下記提出先まで電子メールにて、代表者氏名・タイトル・応募領域等の基本情報をお知らせくだ

さい。

サブジェクトは「科研費申請支援（研究活動スタート支援）」を含む文字列でお願いします。

※ エントリーがなくても申請は随時受付いたしますが、事前にエントリー頂ければコメントータに書類を迅速にお送りできますので、結果の返送も早くなります。

○ 3月下旬～4月中旬頃：申請書提出

申請書のファイル（MS・Word または PDF 形式）を下記提出先までお送りください（予算明細などの詳細まで埋めていただく必要はありませんが、コメントを提供する観点からは、ある程度内容が固まっている段階でご提出いただくのが望ましいと思われます）。

【提出があり次第、コメントータに申請書を送付します。】

○ 申請書ご提出後随時：コメント送付

【各コメントータから提出があり次第、コメントをお返します。】

事前エントリーがあった場合申請書提出から1週間前後、ない場合10日前後の返信を予定しておりますが、事情により遅れる可能性もございますので余裕をもってお申込みください。

■ 提出先・お問合せ先：jsise-y-support@jsise.org まで

※ 学会及びコメントータは申請書に記載された内容について守秘義務を負い、第三者に情報を漏らすことはありません。

※ 制度改善のためのアンケートにお応え頂くことがございますので、ご協力をお願いいたします。



2020 年度 特集号論文募集

学会誌編集委員会委員長 瀬田和久（大阪府立大学）

「SDGs（Sustainable Development Goals）に貢献する教育システム」

論文投稿締切：2020年6月8日（月）

2021年4月1日 発行（予定）

本特集号では、社会における需要が急速に高まっている、持続可能な開発目標（SDGs: Sustainable Development Goals）をテーマとした「SDGsに貢献する教育システム」に関する論文を募集いたします。2015年9月に国連で採択されたSDGsでは、地球上に山積する様々な課題の解決が国際目標として掲げられています。SDGsは、17の目標と169のターゲットから構成され、その一つには、「包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」ことが挙げられています。こうした状況において、「持続可能な開発を促進するために必要な知識・スキルの習得」のための学習環境の充実が求められています。SDGsの採択から5年が経過しようとしています。年限である2030年に向けて、近年における教育システム情報学領域における知見が共有されることによって、SDGsに貢献する教育システムの更なる発展が期待できます。

1. 対象分野

SDGsそれ自体を対象とする教育システムに関する論文、ならびに、教育の質保証、健康・福祉教育、消費者教育、技術者教育、人権・ジェンダー教育、自然・環境・エネルギー教育、防災教育、平和教育、生涯学習など、持続可能な世界を実現するための17ゴール169ターゲットを対象とした教育システムに関する論文を広く募集いたします。

2. 論文種別

すべての種別（一般論文、実践論文、ショートノート、実践速報）の論文を募集いたします。なお、査読を通して、異なる種別での採録となる場合があります。

また、内容により一般号掲載論文へ変更する場合があります。

3. 投稿要領

教育システム情報学会学会誌原稿執筆要領に準じます。詳細は教育システム情報学会のWebページで確認してください。Web投稿の際には以下の点にご注意ください。

- 「投稿種別」で「特集号」を必ず選択してください。
- 特集論文研究会(2020年3月14日：開催中止)で発表を行った（発表扱いになった）方は、投稿情報入力の際に「事務局への連絡事項」の欄に、特集論文研究会での発表題目と発表番号を記載してください。

4. スケジュール

論文投稿締切： 2020年6月8日（月）
採録通知予定： 2020年11月初旬頃（予定）
学会誌 掲載： 学会誌Vol.38, No.2, 2021年4月1日発行（予定）

5. 特集号編集委員会

委員長： 瀬田和久(大阪府立大学)
副委員長： 村上正行(大阪大学)
幹事： 松田憲幸(和歌山大学), 後藤田中(香川大学), 田中孝治(金沢工業大学)
幹事補佐： 近藤伸彦(首都大学東京), 山元翔(近畿大学)
委員： 学会誌編集委員, 特集号編集委員

6. 問い合わせ

全般： 田中孝治(金沢工業大学)
E-mail: kjtanaka@neptune.kanazawa-it.ac.jp
Web投稿： 教育システム情報学会編集事務局（担当：長澤）
電話： 03-6824-9363（月～金：9-12時, 13-17時）
E-mail: jsise-edit@bunken.co.jp
〒162-0801 東京都新宿区山吹町332-6
パブリッシングセンター（株）国際文献社内



Information and Technology in Education and Learning (ITEL) 発刊について

担当者： 英文誌編集委員会

教育システム情報学会では、2002年から毎年定期的に英文誌：The Journal of Information and Systems in Education を発行し、2011年からは J-STAGE をプラットフォームとしたオープンアクセスジャーナルに移行し、国際的な発信力を強化してまいりました。

国際的な研究成果の発信と交流の必要性がますます高まっている状況の中で、このたび教育システム情報学会と日本教育工学会が合同して、新たな英文誌 Information and Technology in Education and Learning (ITEL) を発刊することになりました。ITEL は J-STAGE をプラットフォームとしたオープンアクセスジャーナルとして、年間1巻(1号)を刊行する予定です。現在両学会から編集委員が選定され、発刊の準備を進めているところです。第1号の発刊は2021年1月を予定しており、まもなく論文募集が開始されます(これまでの英文誌にあった、年4回の投稿募集は行われませんが、これまで通り投稿はいつでも可能です)。

論文募集に関する詳しい情報は、4月中に ITEL のウェブサイト(<http://www.j-itel.org/>)、および、本学会のウェブサイト(<http://www.jsise.org/>)でアナウンスされる予定です。



研究会報告年間購読の申し込みについて

研究会報告は、2016年度からは印刷媒体での研究会報告は廃止し、オンライン上でタイムリーかつオンデマンドな閲覧が可能となるように、研究会報告を電子化しています。保管などの手間もなく、大変便利に活用できるようになっております。

是非、研究会報告の「年間購読」のお申し込みをご検討いただければ幸いです。研究会当日も電子媒体として販売する予定ですが、年間購読がお得になっております。

- ・年間購読:4,000円(定例研究会年6回、特集研究会1回、計7回分を含む)
- ・当日販売:1冊1,000円

新規での「年間購読」申込みにつきましては、年会費をお支払いいただく前に会員種別変更申込をお願いいたします。以下の手順でお申し込みください。すでに年間購読をしていた方は手続き不要です。

- 1) 年会費納入手続きの前に、下記フォームにて事務局 (secretariat@jsise.org) まで年間購読申込をしてください。

=====
※研究会報告年間購読希望
会員番号 (お分かりであれば) :
お名前 :
所属 :
連絡先 e メールアドレス :
=====

- 2) 手続き終了後、事務局より会員種別変更完了のご連絡を差し上げます。
- 3) マイページから年会費と合わせて年間購読費をお支払いください。

※年会費納入後に「年間購読」を申込みご希望の場合は、事務局 (secretariat@jsise.org) までご連絡ください。年間購読の請求書をお送りし、会員種別変更の手続きを進めさせていただきます。



教育システム情報学会研究会における 不適切な質問等への対応について

教育システム情報学会 研究会委員会

教育システム情報学会研究会は、教育システム情報学に関わる最新の研究や実践に関する情報交換および意見交換を通して、学会の発展、ひいては当該研究分野の発展において極めて重要な役割を果たしています。さらに、専門領域の近い研究者による緊密なネットワークが大学や研究機関を越えたところで構成されているため、若手研究者の発掘や育成、今後社会に出る学生の教育の場としても、研究会の重要性は非常に大きくなっています。

こうした研究会においては、様々な立場の参加者が自由闊達に議論できることが最も重要です。一方で、意見交換や育成・教育の範囲を大きく逸脱して、研究方法や研究分野、さらには発表スタイルなどを問題とする質問等を執拗に行い、発表者や聴講者に不快感や不利益を与えることは厳に慎まなければなりません。こうした問題が放置されると、研究会への参加だけでなく、学会活動全般、さらには教育システム情報学への関心の拡大に大きな悪影響を及ぼします。

教育システム情報学会研究会においては、意図の有無に関わらず、正当な根拠なく相手に不利益を与え、相手の尊厳を侵害する行為があった場合に、研究会担当委員および座長担当者が、質問の制止や質問者に退席の指示を行えるものとしています。研究会の参加者だけでなく、研究会に関連する全ての人々が快適で安心して研究会に寄与できる環境を維持し、研究分野のさらなる発展と、これを通じた社会貢献を行うために、研究会における皆様の建設的な質疑へのご協力をなにとぞよろしくお願いいたします。

北信越支部より活動報告

北信越支部学生研究発表会開催報告

担当者： 香山瑞恵（信州大学）
中平勝子（長岡技術科学大学）
森 祥寛（金沢大学）

2019年度北信越支部学生研究発表会は、3月10日（火）に、長岡技術科学大学が運用するGI-net2を用いてWeb会議の形式で開催しました。ご存知のように、今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、集合型の取組はほぼ全てが中止になり、JSiSEにおいても学生研究発表会を集合型発表会としては中止をせざるを得ませんでした。本支部におきましては、その前日と当日に開催される大学eラーニング協議会と日本リメディアル教育学会の合同フォーラム (<https://ucla.jp/event/forum2019/>) との共催として準備しており、中止の決定は、仕方がないこととはいえ、非常に残念なことでした。これによって例年以上に参加者がいたであろうことが予想されており、学生にとっては良い発表の機会を失わせることとなり、これもまた残念なことだったでしょう。

一方で、2月末から3月にかけて、集合型の取組の中止を受けて、その代替として、Web会議型の発表会や研修会が開催されて、それがスムーズに進む様は、このような状況ではありますが、情報系のシステムの教育への利用をさまざまな形で示してきたJSiSEにとって、感慨もひとしおではないでしょうか。北信越支部におきまして、学生研究発表会をWeb会議の形式で開催し、各学生達のシステムへの接続状況、発表時の操作、実際の発表など、大きな問題が発生することも無く、淡々と進行していきました。学生だけであれば、また違った結果だったかもしれませんが、各学生の指導教員の先生方のご尽力とサポートもあり、集合型の研究会と変わらない良い会となったと考えます。なお、システムへの接続箇所は14カ所あり、約30名程度が参加し、最終的に優秀発表2名、年次大会への推薦1名を選ばせていただきました。

来年度は、福井県立大学を会場校として、開催する予定となっています。その頃には、間違いなく、新型コロナウイルスの感染拡大も収まり、多くの北信越支部の先生や学生と顔を合せて、発表や議論ができることを願っています。

関東支部より活動報告

学生研究発表会オンライン開催についての報告

報告者：学生研究発表会関東地区実行委員長 山本樹（明海大学）

昨今、コロナウィルスの感染拡大の状況を踏まえ、教育システム情報学会においても対面の場における学生研究発表会は全て中止という判断がなされました。しかし、学生の皆さんにとって貴重な発表経験の場を極力損ないたくないという考えから、Web 会議システム ZOOM を利用したオンライン形式の学生研究発表会を 3 月 2 日に開催しました。

支部役員一同でオンラインでの発表方法と、ネットワークトラブルなどの理由で発表できなかった場合も想定した審査方法を検討した上で、2 月 26 日には発表者に下記を周知しました。

- ・オンライン開催用に組み直したプログラム
- ・発表当日の接続方法・発表方法などを含む発表者用資料
- ・Google ドキュメントを用いた当日のトラブル対應用サイトの URL
- ・接続テストの実施時間帯

当日の午前中（10:00～13:00）に、発表資料の提示など発表者の立場に沿った接続テストを行いました。発表者から事前の相談はあったものの、接続テストを順調に終えて開会時間を迎えました。実際のプログラムは https://www.jsise.org/society/presentation/2019/03_kanto.html をご参照ください。

始めに松居支部長からオンライン開催の趣旨をお伝えしたのを皮切りに、予定していた 10 件の発表を順調に終わることができました。関東支部役員の皆が一様に安堵したのが正直な気持ちです。発表後の審査についても、オンラインで審査員のみでの会議を行い（ZOOM のブレイクアウトルーム機能を利用）し、発表終了 15 分後には審査結果を伝えることができました。

運営自体は運営者の予想以上に順調に進みましたが、発表した学生からは、

- ・発表資料で画面が専有されるため、自身の話が聞き手に伝わっているのかが分かりにくく不安
- ・身振り、手振りをしていても伝わらない

という意見がありました。

また、例年の学生研究発表会より質問・コメントが少なくなったように感じました。対面形式とは異なり、場の空気を読みにくく参加者同士が探り合うように感じられたことが原因かもしれません。さらに、発表後の質疑応答時間（4 分）だけでは議論を十分深めるに至らない場面もありました。対面形式であれば、休憩中などに議論の続きが始まる光景も見られますが、オンラインではそのようなコミュニケーションは実現できませんでした。

今回のような緊急事態だけでなく、今後オンライン開催が常態化する可能性もあります。幸いにも大きなトラブルがなかった学生研究発表会でしたが、よりスムーズな運営を行うためには上記の問題点も含めた知見の積み重ねと対応方法の検討が必要かもしれません。

関西支部より活動報告

2019年度関西支部産学連携研究会報告

担当者：原田ゆかり（株式会社ワークアカデミー）、溝渕昭二（近畿大学）

■テーマ：SDGsに向かう教育を考える～民間企業と教育機関の活動事例から～

■開催日：2020年2月8日（土）

■会場：近畿大学東大阪キャンパス5号館1階アクト112

■概要：

2020年2月8日に近畿大学東大阪キャンパス5号館1階アクト112にて、「SDGsに向かう教育を考える～民間企業と教育機関の活動事例から～」をテーマに2019年度関西支部産学連携研究会を開催いたしました。当日は23名の方々にご参加いただきました。参加者の内訳は、企業や団体の方が11名、教育機関の方が12名でした。

招待講演では、近畿大学の保本正芳先生よりSDGsをどのようにして自分の課題にしていくかについてご講演いただきました。続くパネル討論では、まず、民間企業での取り組み事例として、株式会社日本旅行の椎葉隆介様より株式会社日本旅行がSDGsをどのようにとらえ事業を展開しているのかについてご報告いただきました。次に、大学での取り組み事例として、畿央大学西端律子先生より、小学校の総合的な学習の時間において、地域の産業とそれらの六次産業化を子どもたち自身が体験するSDGsの取り組みについてご報告いただきました。さらに、学生の取り組み事例として、一般社団法人未来教育推進機構（UMEDAI）学生事務局の信原勇太様より、学生のつぶやきから始まったSDGsの取り組みについてご報告いただきました。研究会終了後に開催された名刺交換会（情報交換会）では、活発な議論や情報交換が行われ、産学交流のよい機会となりました。今回の研究会では、参加者を巻き込む講演が多くあり、参加者のお声（笑い声も）多く聞かれた会となりました。

なお、2019年度関西支部産学連携研究会で発表されたタイトルは、以下のとおりです。

- SDGsを「自分ごと化」
- SDGsを取り入れた教育旅行の取組
- 小学校「総合的な学習の時間」におけるSDGsの取り組みと地域の六次産業化
- UMEDAIにおける学生主体で進めるSDGsの取り組み





Twitter アカウムの紹介

2016年8月下旬より、全国大会開催に合わせて学会の公式 Twitter アカウムの開設しました。本アカウムの原則として当学会の広報を目的とした配信専用としております。本学会へのご質問・お問い合わせは、学会事務局 (secretariat@jsise.org) へお願いします。また、Facebook アカウムのとの連携もっており、Facebook ページの投稿が Twitter にも流れますので、ぜひご活用 (フォロー) ください。

<https://twitter.com/JsisePr>

◇ 2020年3月23日現在、フォロワー数 225 アカウムの



Facebook ページもご覧ください

教育システム情報学会では Facebook ページを運用しています。本ページでは、

- ・論文・発表募集
- ・本学会に関連するイベントの情報

などを、いち早くお届けします。ぜひ、ご覧下さい。

Facebook ユーザの方は、ぜひ、「いいね」をお願いいたします。

<https://www.facebook.com/jsise.org/>

◇ 2020年3月23日現在、いいね 379 件、413 人フォロー



他団体 協賛・後援イベントのお知らせ

協賛「2020年度工学教育研究講演会」

日時：2020年9月9日（水）～11日（金）

会場：北海道大学大学院工学研究院

後援「全国高等専門学校第31回プログラミングコンテスト」

日時：2020年10月10日（土）～11日（日）

会場：苫小牧市民会館



会費納入のお願い

会費納入についてのお願いです。学会の活動は皆様の会費で支えられていますので、2019年度会費未納の方はご協力のほどどうぞよろしくお願い致します。なお、2月上旬に2020年度会費納入のお願いをメールでお送りしましたので、合わせてお願い致します。

「クレジット決済」、「コンビニ決済」をご希望の方は、下記のマイページよりお手続きをお願いいたします。

URL <https://bunken.org/jsise/mypage/Login>

※会員専用ページのURLは、会員情報管理システムの業務委託をしている株式会社国際文献社のものです。

- 「銀行振込」をご希望の方は、下記のいずれかの口座へお振込みをお願いいたします。

■振込先

◆ゆうちょ銀行

口座記号番号：00180-6-709632

加入者名：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ： シャ) キョウイクシステムジョウホウガッカイ

※他金融機関からゆうちょ銀行に振込む場合

銀行名：ゆうちょ銀行（金融機関コード：9900）

店名：〇一九 店（ゼロイチキョウ店） 預金種別：当座 口座番号：0709632

名義：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ： シャ) キョウイクシステムジョウホウガッカイ

◆三菱 UFJ 銀行（金融機関コード：0005）

店名：上新庄支店（カミシンジョウ支店）

預金種別：普通 口座番号：0142708

名義：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ： シャ) キョウイクシステムジョウホウガッカイ

◆みずほ銀行（金融機関コード：0001）

店名：茨木 支店（イバラキ支店）

預金種別：普通 口座番号：1399483

名義：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ： シャ) キョウイクシステムジョウホウガッカイ

- 請求書・領収書（支払い後）は、マイページでオンライン発行できます。
- 請求書・領収書の郵送をご希望の方は、事務局（secretariat@jsise.org）までご連絡ください。

※団体名でお振込みいただきますと、個人を特定できない場合がございますので、振込名に会員番号またはお名前をご入力いただくか、難しい場合は、振込内容を事務局までご連絡いただければ幸いです。
※所属が変わった方は、マイページにログインした際に、連絡先などを変更するようお願いいたします。

【過年度年会費を支払われていない方へ】

マイページでは、全ての年度の未納金額を合算した金額が請求されます。先に本年度以前の分のお支払いを希望される方は、先に郵送された払込用紙付請求書をご利用になるか、学会事務局（secretariat@jsise.org）までご連絡下さい。

※会費のお支払いが確認できない場合、学会からの送付物を停止させていただく場合があります。また、会員資格停止の手続きを進めさせていただく場合があります。

ご不明な点は、事務局（secretariat@jsise.org）までお問合せ下さい。

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター
Tel:03-6824-9376 Fax:03-5227-8631 Email : secretariat@jsise.org



事務局より



会員専用ページのご案内

URL : <https://bunken.org/jsise/mypage/Login>

※会員専用ページの URL は、会員情報管理システムの業務委託をしております株式会社国際文献社のものです。

■会員専用ページでは、以下のことができます。

1. 会員個人ページでの、現在の登録情報の確認・変更
2. 年会費納入状況の確認
3. 会費の納入、クレジット/コンビニ決済
4. パスワードの変更

会員種別、フリガナ、研究報告年間購読の登録等はマイページでは変更できませんので、お手数ですが JSiSE 事務局会員窓口 (secretariat@jsise.org) までご連絡をお願い致します。

ログインには、ID とパスワードが必要です。

パスワードをお忘れになった場合は、上記ウェブサイトにて照会できます。何かご不明な点がございましたら、JSiSE 事務局会員窓口 (secretariat@jsise.org) までご連絡ください。

今後とも教育システム情報学会の活動にご理解ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



入会のご案内

入会をご希望の方は、下記のサイトよりオンライン入会申込フォームにアクセスしていただき、お申し込みをお願いいたします。

URL : <http://www.jsise.org/admission/index.html>

☆キャンペーン☆

※現在、本学会開催の研究会等で、会場にて新規お申し込みいただいた方には、**入会金を無料にさせて頂くというキャンペーン**を行っております。
そちらも、合わせてご案内いただきますようお願いいたします。



新入会員のご紹介

下記の皆様が新しく入会されました。(2020年1月17日～2020年3月17日)

会員名	会員種別
菊池 拓男	正会員
松山 宏樹	正会員

(計2名)